

令和5年度 国際コミュニケーション学科 専門科目 シラバス

科目名	情報・統計処理 Informatics/Statistical Processing	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期） [岐阜学関連科目]	科目区分	演習
担当者	長谷川 旭	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>統計学の基本的な概念を学ぶとともに実際の運用の場面での使い方を学ぶ。具体的には基本統計量、記述統計・推測統計の違い、正規分布、検定等とその応用を学習する。 統計の基礎について学び、演習を通じて、情報分析力と統計手法、データ活用の方法を身につけることを目的とする。</p>		
授業概要	<p>最初に、表計算ソフトの利用法について学ぶ。次に、様々な情報を客観的に記述、解釈するための手段である統計の基礎について学び、その分析手順を修得する。次に、学んだ知識を使い、データ収集と収集したデータの分析を行う。実験的な演習・分析や、地域（岐阜）に関する実際のデータ（政府の公的統計など）の分析を通じて、学んだ知識の定着を行う。最後に、データサイエンスやAIに関する文献調査をし、プレゼンテーションによる発表を行い、お互いの発表を聞くことで、この分野に関する知識を深めるとともに、視野を広げる。 【SDGs : 4, 9】 【岐阜学関連の授業回 : ⑩, ⑫, ⑬, ⑭, ⑮】</p>		
授業計画	<p>① ガイダンス、アンケート調査と身近にある統計 ② 表計算ソフトの利用方法（関数、グラフ作成） ③ データビジュアライゼーション、データ分析ツール ④ 代表値とばらつき、クロス集計 ⑤ 偏差、ヒストグラム ⑥ 四分位法、箱ひげ図 ⑦ 相関分析、回帰分析 ⑧ 統計的仮説検定（1） ⑨ 統計的仮説検定（2） ⑩ 統計的仮説検定（3） ⑪ 統計処理演習（1）データの収集と分析 ⑫ 統計処理演習（2）データの分析とまとめ ⑬ 統計処理演習（3）発表 ⑭ 統計処理演習（4）発表、データサイエンスとAIの関連 ⑮ 統計処理演習（5）発表、総括とまとめ ⑯</p>		
予復習等	<p>【予習】ガイダンスや毎回授業中に指示する。 【復習】講義内容を復習しながら、授業中に指示する課題等に取り組むこと。</p>		
評価方法	平常点15%、課題および授業内試験85%		
履修条件	なし。		
教科書	なし、授業内で資料配布を行う。		
参考書	『Excelデータ分析の教科書』、日花弘子著、SBクリエイティブ株式会社出版		

科目名	フランス語 I French I	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	小田 麻里名	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>Bonjour ! と笑顔であいさつできることが一番大切です。SDGsの17の目標に関わるフランスのトピックを紹介していきます。日本と比較しながら、岐阜県についての理解を深める教材で、様々なフランス語単語や表現を覚えていきましょう。在学中にフランス語検定に合格できるように文法を分かりやすく解説します。楽しくフランス語を学びながら日本のゆたかさを考察する機会にもなるような、生きたフランス語を身につけていきましょう。</p>		
授業概要	<p>毎回の授業が、新しい“できる”がふえていくレッスン内容です。フランス語の単語は実は日本の外来語由来にとっても多く、みなさんにとって身近な単語がたくさんあります。日本人は昔からフランスで多くのことを学び、そしてフランスからもたくさんの人々が日本を学ぼうと来日しています。みなさんの表現力が向上する例文を用意して“伝える・伝わる”フランス語をいっしょに身につけていきましょう。練習問題を通して文法力もアップします。Après la pluie, le beau temps. 最初は難しいフランス語も必ずできるようになります。 【SDGs : 2, 3, 5, 8, 11, 12, 13, 14, 15, 17】</p>		
授業計画	<p>① 辞書の使い方、発音、男性形と女性形、形容詞、学習方法のガイダンス ② 動詞の活用と冠詞について ③ 指示形容詞と日常のあいさつ表現 [SDGs : ⑤⑧⑩トピックス紹介] ④ 前置詞 [SDGs : ③⑭⑮トピックス紹介] ⑤ 過去形 [SDGs : ②⑫⑬トピックス紹介] ⑥ フランス語検定試験問題を使って、冠詞・前置詞の復習 ⑦ 自己紹介 数字 1～50 ⑧ 他者紹介 数字 50～100 ⑨ フランス語検定試験問題を使って、動詞の活用の復習 ⑩ 基本的な日常会話練習① ⑪ 岐阜県の郷土料理をフランス語で紹介してみましょう ⑫ 岐阜県の観光地をフランス語で紹介してみましょう ⑬ フランス語検定試験問題5級レベルにトライ（詳しい解説します） ⑭ [SDGs⑩] 大切にしていきたい日本のゆたかさをみんなでフランス語で書いてまとめてみま ⑮ フランス語 I のまとめ ⑯ 定期試験</p>		
予復習等	<p>はじめての外国語の辞書を使いますので、辞書に慣れるためにもこまめに調べましょう。教科書には発音をカタカナでふらない様にするため、ノートに本文をうつしておきましょう。 毎回予習30分 復習30分 音声練習30分</p>		
評価方法	出席状況及び授業態度：25% 小テスト：15% 定期試験：60%		
履修条件	なし		
教科書	「オン・デマール」 古賀健太郎 駿河台出版社		
参考書	ベーシッククラウン仏和・和仏辞典がいいと思っていますが、すでに家にある場合はその仏和辞典（紙の辞書）。		

科目名	フランス語Ⅱ French II	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	小田 麻里名	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	Bonjour ça Va?・・・とフランス語であいさつしたり、笑顔で会話ができる自分をイメージできる授業になるように、みなさんの質問にもていねいに答えていきます。1年目を終わる頃にフランス語検定試験5級・4級にトライできる文法力と表現力を身につけられる内容です。みなさんの日常生活をフランス語で説明できる単語力のために、作文練習もオリジナルで作りました。楽しくハッピーな気持ちではじめてのフランス語学習を進められるように毎回工夫していきます。		
授業概要	<p>現在形、未来形、過去形を全て学ぶことで、表現力は確実にアップしていきます。発音も繰り返しの練習でより自然となります。初級文法の仕上げとしてのフランス語作文。初級会話のまとめとしてのおかしいもの表現や自己紹介文の習得。On ne fait pas d'omelette sans casser des œufs、“たまごをわらないとオムレツはつれない”ように、みなさんの勇気のためを育て、おいしいフランス語会話オムレツをいっしょに作っていききたいと思っています。たくさんお話していきましょう。</p> <p>【SDGs：4,9】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① フランス語Ⅰの復習</li> <li>② フランス語のさまざまな疑問表現と否定表現 [SDGs：⑨トピックス紹介]</li> <li>③ 中性代名詞 [SDGs：④トピックス紹介]</li> <li>④ フランス語の時制① 現在形</li> <li>⑤ フランス語の時制② 過去形</li> <li>⑥ フランス語の時制③ 未来形</li> <li>⑦ フランス語検定試験問題を使って、時制の復習</li> <li>⑧ フランス語検定試験問題を使って、形容詞、副詞の復習</li> <li>⑨ 比較級、最上級</li> <li>⑩ フランス語を使ったゲームを作って遊びましょう</li> <li>⑪ 日記をフランス語で書いてみましょう</li> <li>⑫ 条件法、受動態、ジェロンディフ</li> <li>⑬ フランス語検定試験問題4級レベルにトライ + 詳しい解説</li> <li>⑭ [SDGs⑨] 岐阜県の産業、文化、伝統をフランス語で紹介してみましょう</li> <li>⑮ フランス語Ⅱのまとめ</li> <li>⑯ 定期試験</li> </ol>		
予復習等	フランス語に少し慣れてきた頃です。なので辞書をさらに活用して熟語を覚えていきましょう。 予習15分 単語・熟語暗記15分 復習20分 音声確認15分 音読15分		
評価方法	出席状況及び授業態度：25% 小テスト：15% 定期試験：60%		
履修条件	なし		
教科書	「オン・デマール」 古賀健太郎 駿河台出版社		
参考書	ベーシッククラウン仏和・和仏辞典がいいと思っていますが、すでに家にある場合はその仏和辞典（紙の辞書）。		

科目名	中国文化論 Chinese Cultural Studies	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	講義
担当者	王 張璋	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	中国は世界一の人口を持つ、多民族国家であり、唯一消滅していない古代文明の地である。改革開放後経済力が急上昇し、アメリカに続きGDPで世界2位にまで発展した。日本とお互いに最大の貿易相手であり、日本における外国人観光客、留学生、常住者、ビジネス関係者はすべて中国が1位を占めており、身近な存在である。本講義は、中国の多様性文化現象から、少数民族、世界遺産、大衆娯楽文化などに焦点をあて、中国社会の特徴と中国式考え方に触れてもらう。日本と異なる中国社会や文化特徴を理解し、グローバル化社会で多文化の共存していくことの大切さと、自分自身の世界観を広げることを目標とする。		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：トヨタ自動車関連の仕事に10年間勤め、海外外向経験あり。その後中国テーマパークの水族館部門にて、副館長として5年間運営に当たった】 中国の民族、音楽、芸能、ジェンダーなどの文化を紹介しながら、中国社会における多様性を考察していく。改革開放以降に表れてきた経済発展と娯楽文化も紹介する。理解を深めるために動画などの視覚教材を活用し、講義を進めていく。 この授業は中国人留学生も履修していて、隔週開講の高大連携授業でもあり、留学生や、高校生との交流機会を設けるので、積極的に参加しよう。</p> <p>【SDGs：10,16】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 中国って、どんな国？</li> <li>② 中国の食文化と観光</li> <li>③ 漢民族と少数民族(岐阜長良川鶴飼と大理の意外な繋がり)</li> <li>④ 中国の「Z世代」と「国潮」</li> <li>⑤ 中国の女性と結婚観</li> <li>⑥ ゼロコロナからみる中国式考え方</li> <li>⑦ グループ発表</li> <li>⑧ グループ発表</li> <li>⑨ グループ発表</li> <li>⑩</li> <li>⑪</li> <li>⑫</li> <li>⑬</li> <li>⑭</li> <li>⑮</li> <li>⑯</li> </ol>		
予復習等	<p>【予習】日頃のニュースやトレンドに関心を持つこと。 【復習】疑問に感じたことを調べたり、teamsにて質問や意見交換などを行う</p>		
評価方法	出席状況30%、感想文の提出30%、グループ発表40%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	使わない。PPTを用意する		
参考書	なし		

科目名	英語コミュニケーションⅠ (A4・B1・B2・C2・C3・C4クラス) English Communication I	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）〔岐阜学関連科目〕	科目区分	演習
担当者	コットン ランダル	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	This class will help students improve their English conversation skills. Clear training in how to speak English like a native speaker will be given. The aim is to help students understand the differences between Japanese and Western cultural speaking styles in order to communicate more effectively. With this knowledge, students will be able to use simple expressions to speak like native speakers of English.		
授業概要	Students will spend much time in class learning vocabulary and speaking with classmates about everyday life topics. Vocabulary quizzes will be given at the end of each unit. By the end of the course, if students work hard, they will be able to speak English more fluently, accurately, and with more complexity than they could at the beginning of the year.  【SDGs:4,17】 【岐阜学関連の授業回:④,⑤】		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>① Unit 1 (Part 1): Three Golden Rules / Natural greetings</li> <li>② Unit 1 (Part 2): Golden Rule #1 / Club activities</li> <li>③ Unit 1 (Part 3): Implicit questions / Part-time jobs</li> <li>④ Quiz / Unit 3 (Part 1): Hometown attractions</li> <li>⑤ Unit 3 (Part 2): Hometown likes &amp; dislikes</li> <li>⑥ Unit 3 (Part 3): Where will you live in the future?</li> <li>⑦ Quiz / Practice for speaking test</li> <li>⑧ Speaking Test #1</li> <li>⑨ Unit 2 (Part 1): Daily routines</li> <li>⑩ Unit 2 (Part 2): Hardest / easiest days of the week</li> <li>⑪ Unit 2 (Part 3): Daily activities / Golden Rule #3</li> <li>⑫ Quiz / Unit 6 (Part 1): Music</li> <li>⑬ Unit 6 (Part 2): Movies</li> <li>⑭ Unit 6 (Part 3): TV, games, and social media</li> <li>⑮ Quiz / Practice for speaking test</li> <li>⑯ 定期試験 (Speaking Test #2)</li> </ul>		
予復習等	【予習】 Study the textbook before coming to class each week. 【復習】 Review the lessons to better remember the material covered in class.		
評価方法	Participation (20%); Vocabulary quizzes & homework (30%); Speaking tests (50%)		
履修条件	Students need to have a desire and motivation to speak English.		
教科書	Conversations in Class (3E). Jerry Talandis Jr. and Bruno Vannieu. Alma Publishing, Kyoto. 2015.		
参考書	<a href="http://www.cic-multimedia.com/">http://www.cic-multimedia.com/</a>		

科目名	英語コミュニケーションⅠ (A1・A2・A3・B3・B4・C1・クラス) English Communication I	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）〔岐阜学関連科目〕	科目区分	演習
担当者	杉浦 エレナ	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	The objectives of this course are for students to develop practical communication skills for everyday English conversations. To this end the course will focus on building up confidence in English abilities through scaffolded listening and speaking activities. Students will also learn about American and British customs and culture in order to introduce a more international outlook.		
授業概要	【担当者の実務経験:日本の文化になじみのない英会話教師をサポートしてきた職務経験を活用し、コミュニケーションをとる中で日本と外国の文化的なギャップへの実際の経験に基づく対処法を身につけます。】 The course will review speaking activities familiar to the students such as introductions, family life and hobbies before introducing more challenging communication activities such as asking for information, telling a story and discussing problems.  【SDGs:4】 【岐阜学関連の授業回:②,⑭】		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>① Orientation. Introduction and ice breaker activities.</li> <li>② Class album. Simple information exchange. Polite, impolite questions.</li> <li>③ Favorite photos. Describing family and friends. Follow up questions.</li> <li>④ Personal goals. Describing future goals. Asking for advice.</li> <li>⑤ Believe it or not. Telling a story. Reacting with interest.</li> <li>⑥ Where I grew up. Using the past tense and `used to`.</li> <li>⑦ Bargain shopper. Shopping expressions and bargaining for goods.</li> <li>⑧ Review and speaking mid term assessment.</li> <li>⑨ The perfect gift. Japanese, American and UK gift giving customs.</li> <li>⑩ Party planner. Holidays in Japan, the US and the UK. Invitations.</li> <li>⑪ Music profile. Likes, dislikes and genres of music. Reported speech.</li> <li>⑫ Style makeover. Describing appearance and clothing. Giving advice.</li> <li>⑬ Honesty. Telling stories. Asking hypothetical questions.</li> <li>⑭ Making things better. School problems. Using `too` and `(not) enough`.</li> <li>⑮ Review and speaking assessment.</li> <li>⑯ End of term examination.</li> </ul>		
予復習等	【予習】 Weekly vocabulary lists. 【復習】 Mid term and end of term speaking assessments.		
評価方法	Mid term speaking assessment 20% End of term speaking assessment 20% Participation 10% End of term examination 50%.		
履修条件			
教科書	Active Skills for Communication Book 1. HEINLE CENGAGE learning. Sandy, Kelly.		
参考書			

科目名	検定英語演習 I Skills for English Proficiency Exams I	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	小島 ますみ	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	TOEIC 550点突破に必要な英語力や攻略法を身につけることを目的とする。リスニングでは、ナチュラルスピードの会話に慣れ、必要な情報を聞き取り、TOEICリスニング・パートで280点達成を目指す。リーディングでは、テキストから必要な情報をすばやく読み取る力をつけるとともに、出題頻度の高い語句・表現や、基本的な文法もしっかりと身につけ、TOEICリーディング・パートで270点達成を目標とする。		
授業概要	<p>【担当者の 実務経験： 国家公務員として、経理や人事業務や通訳・翻訳の経験あり】</p> <p>授業では、毎回日常的なテーマを基にリスニング、リーディングの演習を行い、基礎的な英語力の向上を図るとともに、TOEIC各パートの攻略法を身につける。授業は予習を前提として進めるため、受講生はテキストや配布プリントの指定された箇所を予習の上で授業に臨むこと。その他、英語音声学の理論に基づいた発音練習を行う。英語と日本語の違いを理解し、英語の文強勢やイントネーションにも重点を置いて、発話練習を行う。</p> <p>【SDGs: 4, 5, 9】</p>		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>① Unit 1: Restaurant</li> <li>② Unit 2: Entertainment</li> <li>③ Unit 3: Business</li> <li>④ Unit 4: Office</li> <li>⑤ Unit 5: Telephone</li> <li>⑥ Unit 6: Letter &amp; E-mail</li> <li>⑦ Unit 7: Health</li> <li>⑧ 中間試験</li> <li>⑨ Unit 8: Bank &amp; Post Office</li> <li>⑩ Unit 9: New Products</li> <li>⑪ Unit 10: Travel 1</li> <li>⑫ Unit 11: Travel 2</li> <li>⑬ Unit 12: Job Applications</li> <li>⑭ Unit 13: Shopping</li> <li>⑮ Unit 14: Education</li> <li>⑯ 期末試験</li> </ul>		
予復習等	<p>【予習】各ユニットや配布プリントのリーディングや語彙問題</p> <p>【復習】テキストや配布プリント全般。中間テストと期末テストを行う。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度 30%、中間試験25%、期末試験25%、TOEIC(College TOEICまたは公開TOEIC)のスコア 20%		
履修条件	なし		
教科書	BEST PRACTICE FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST (SEIBIDO)		
参考書	TOEICテスト公式問題集 新形式問題対応編		

科目名	初級中国語 I (A1・A2・A3・A4・B1・B2クラス) Basic Chinese I	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	王 張璋	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本授業は中国語の初心者向けの授業である。中国語の発音や基礎文法に慣れることを目指す。中国語の発音は日本語と違って、独特な声調があるため、まずピンインや声調をしっかり練習し、中国語の発音に慣れるように頑張してほしい。中国語の発音、基礎的な文法知識を身につけながら、中国の文化や言葉表現の習慣に触れていく。一年間を通して「初級中国語I、II」で中国語検定資格の準4級あるいは4級を取得できるレベルを目指す。		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：トヨタ自動車関連の仕事に10年間勤め、海外外向経験あり。その後中国テーマパークの水族館部門にて、副館長として5年間運営に当たった】</p> <p>実務経験に基づいて、受講者が中国語の習得に難しいと感じる点は時間をかけて説明する。テキストに沿って、発音練習や文法の説明、練習問題などを行う。授業ではなるべく多くの学生に当てて、中国語の発音練習と会話練習を繰り返す。毎回、授業の理解とリスニングの練習をするために、最後の15分を使って小テストを行う（小テスト結果も授業評価の一部とする）。授業に合わせて最新の中国情報や音楽なども随時紹介する。</p> <p>【SDGs : 10, 16】</p>		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 中国語の勉強方法、中国語検定試験の説明</li> <li>② 単母音、複合母音</li> <li>③ 子音、声調</li> <li>④ 変調の規則</li> <li>⑤ 第1課 お名前は？</li> <li>⑥ 第2課 これは私のパソコンです。</li> <li>⑦ 第3課 ここは寒いです。</li> <li>⑧ 第4課 7時に起きます。</li> <li>⑨ 第5課 学校まで遠いです。</li> <li>⑩ 第6課 何コマがありますか。</li> <li>⑪ 第7課 お幾つですか。</li> <li>⑫ 第8課 図書館で勉強します。</li> <li>⑬ 第9課 どこへ行きましたか。</li> <li>⑭ 第10課 パンを食べたいです。</li> <li>⑮ 復習</li> <li>⑯ 定期試験</li> </ul>		
予復習等	<p>【予習】各課の文法を予習して、その説明を理解しておくこと。</p> <p>【復習】前回習った内容を整理して、毎回の小テスト準備をしておくこと。</p>		
評価方法	出席状況20%、小テスト40%、定期試験40%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	『楽しく学ぼう やさしい中国語（基礎編）』 郁文堂出版社。著者：張慧娟、王武雲、朱藝 2,500+税		
参考書	なし		

科目名	初級中国語 I (B3・B4・C1・C2・C3・C4クラス) Basic Chinese I	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科 (1年前期)	科目区分	演習
担当者	王 武云	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	外国語の学習は、単に情報獲得の道具を得るためでなく、その言語の背景にある人々の文化の理解も重要である。従って本授業は中国語の発音、基礎的な文法知識を身につけて、中国の文化や習慣に触れながら、簡単な会話ができることを目指す。		
授業概要	テキストに沿って、発音練習、文法の説明、練習問題の解答。授業ではなるべく多くの学生に当てて、中国語の発音練習と会話練習をする。毎回、前回の授業を復習する意味で、授業の最初に小テストを行うから、小テストの準備も授業の一部と考えてください。 【SDGs : 4, 16】		
授業計画	① 中国語とは？単母音、複合母音、 ② 子音、声調 ③ 変調の規則 ④ 第1課 お名前は？ ⑤ 第2課 これは私のパソコンです ⑥ 第3課 ここは寒いです ⑦ 第4課 7時に起きます ⑧ 第5課 学校まで遠いです ⑨ 第6課 何コマがありますか ⑩ 第7課 お幾つですか ⑪ 第8課 図書館で勉強します ⑫ 第9課 どこへ行きましたか ⑬ 第10課 パンを食べたいです ⑭ 復習 ⑮ 中国語の発表会 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 授業前習う予定の内容を目を通して、その説明を理解しておくこと。 【復習】 小テストの準備をしておくこと。		
評価方法	出席状況20%、小テスト40%、定期試験40%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	『楽しく学ぼう やさしい中国語 (基礎編)』 郁文堂出版社。著者：張慧娟、王武雲、朱藝 2,500+税		
参考書	授業の中で随時紹介する		

科目名	初級韓国語 I Basic Korean I	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科 (1年前期)	科目区分	演習
担当者	孫 ミギョン	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	韓国語の入門クラスとして韓国語の文字であるハングルに慣れながら、ことばの基礎を学ぶ。前半では韓国語の文字とその発音を十分練習し、後半では、基礎文法と語彙を中心に表現演習をする。この授業は、①ハングル文字を発音でき、書くことができる。②簡単な自己紹介ができるようになる。③基本的な挨拶でコミュニケーションがとれることを目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：公的機関等での通訳、翻訳の経験あり】 韓国語の文字（ハングル）の読み方、書き方だけではなく、言語に関わる韓国文化についても理解できるように授業を進める。前半では文字と発音の学習に力点をおき、後半では助詞の使い方や叙述・疑問・否定・尊敬などの用言活用を中心に学習する。授業には主体性と積極性を発揮して臨んでほしい。 【SDGs : 4, 9, 17】		
授業計画	① ガイダンス ② 文字・発音練習 (1) - 単母音 ③ 文字・発音練習 (2) - 二重母音 ④ 文字・発音練習 (3) - 子音 I ⑤ 文字・発音練習 (4) - 子音 II ⑥ パッチム及び子音字のまとめ ⑦ ハングルの発音のルール ⑧ 第1課A・B こんにちは。/田中さんは兄弟がいますか。 ⑨ 第2課A・B この人は誰ですか/寮はどこですか。 ⑩ 第3課A・B 教室は何回ですか。/誕生日はいつですか。 ⑪ 第4課A・B 男子学生が2人にいます。/これ、いくらですか。 ⑫ 第5課A・B 1時間目は何時からですか。/毎日、授業がありますか。 ⑬ 第6課A・B 一緒に夕食を食べましょう。/どこで会いますか。 ⑭ 第7課A・B 私は田中です。/私は学生食堂で食べます。 ⑮ 第8課A・B いいえ、好きじゃないです。/どうして食べられないんですか。 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 各課ごとに新出語彙を予め予習しておくこと。 【復習】 小テストがあるので必ず復習しておくこと。		
評価方法	発表10%、提出物及び授業態度20%、小テスト30%、定期試験40%(授業回数の3分の1をこえて欠席した場合は評価の対象にならない)		
履修条件	なし。		
教科書	『新・韓国語へのとびら』、著：中島仁 /金珉秀 /吉本一、出版社：朝日出版社		
参考書	なし。		

科目名	日本語表現法 I Japanese Composition I	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	村中 菜摘	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	日本語を世界のなかの一言語としてとらえ、長所や弱点を客観的に知ることで、読み手に伝わりやすい書きことばの表現を自分で考え、作文に応用できるようになることを目的とする。さまざまな種類の文章に触れることにより、その文章を書く目的は何か、目的に応じて求められる内容は何かを的確に判断し、場面に応じて適切な書きことばの表現を選択できるようになることを到達目標とする。		
授業概要	ことばの4機能である「読む」・「書く」・「話す」・「聞く」のうち、本講義では「書く」ことを中心に扱う。まず日本語の特質を客観的にとらえることから始め、それを念頭に、内容を読み手に適切に伝えるための語句の選択、自然な語順、待遇表現と敬語、文章のさまざまな型を学ぶ。テキスト各節の練習問題および付録のワークブックを用い、実用文書としての案内文や型に依りつつ個性を発揮できる手紙文の作成のほか、文章の要約の練習も取り入れながら進める。課題レポートを作成するためのポイントやタイトルの付け方、内容の組み立て方も実践的に学ぶ。  【SDGs：4】		
授業計画	① ガイダンス、日本語の書きことばの特質（1） ② 日本語の書きことばの特質（2） ③ 日本語の書きことばの特質（3） ④ 語句の選択、自然な語順、表記についての基礎知識 ⑤ 待遇表現と敬語、敬語の種類について（1） ⑥ 待遇表現と敬語、敬語の種類について（2） ⑦ 婉曲語・改まり語・美化語・丁寧語、文章を書く前の留意点 ⑧ 文章の種類と型から、求められる内容について考える ⑨ サンプルを参考に案内文を作成する ⑩ 手紙文の構造研究、サンプルを参考に手紙文を作成する（1） ⑪ サンプルを参考に手紙文を作成する（2）・発表 ⑫ 文章を読んで要点を捉える（1） ⑬ 文章を読んで要点を捉える（2） ⑭ レポートの条件、レポートの構造を知る、全体の構想を練る ⑮ レポートに題目を付ける、レポートをまとめる ⑯ 定期試験		
予復習等	毎回、その日に学んだテキスト、ワークブック、プリント等を見直しておくこと。		
評価方法	出席状況・受講態度40%、演習・発表への取り組み30%、定期試験30%		
履修条件	なし		
教科書	『コミュニケーション技法』／編著：プレゼンテーション学研究会／出版：ウィネット		
参考書	必要に応じてプリントを配布する		

科目名	韓国文化論 Korean Cultural Studies	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	講義
担当者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	朝鮮半島の歴史について理解することを目的とする。具体的には、学生が朝鮮半島の歴史の基礎的知識を習得し、朝鮮半島での歴史の変遷、各時代の特徴、各時代の王朝と中国大陸や日本との関係が説明できるようになることを目標とする。さらには、隣国の歴史を理解することが日本と朝鮮半島との関係について理解を深めることにつながることを期待される。		
授業概要	最初に朝鮮半島の地理の概要について学ぶ。次に、古代から近代まで朝鮮半島の各時代、各王朝の特徴を学ぶ。その際、中国大陸の各王朝や日本との関係を重視する。続いて、日本による植民地統治とその後の南北朝鮮の分断について学ぶ。この授業は隔週で行うなので、授業が開講される日に注意すること。全8回の授業であり、回数が少ない授業なので予復習に努めることが授業の内容を理解するために大切である。  【SDGs：10, 16】		
授業計画	① 地理 ② 古朝鮮と漢四郡 ③ 高句麗と三韓 ④ 統一新羅と渤海 ⑤ 高麗 ⑥ 朝鮮 ⑦ 大韓帝国と日韓併合 ⑧ 大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国 ⑨ 定期試験 ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯		
予復習等	配布されたプリントを整理し、次の時間に使用するプリントの内容を確認しておくこと。授業後はノート整理に努めること。		
評価方法	レポート50%、定期試験50%		
履修条件	なし		
教科書	なし。プリントを配付する。		
参考書	『朝鮮を知る事典』／著：伊藤亜人ほか／出版：平凡社		

科目名	国際コミュニケーション概論 Introduction to International Communication	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	講義
担当者	オムニバス	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本講義は、国際コミュニケーション学科の各教員によるオムニバス形式で行う。本講義は、受講生が日本を含む世界のさまざまな地域、研究分野に広く関心を持ち、今後どのような学びを修めていきたいか、そのヒントを得ることを目的とする。		
授業概要	本講義は、国際コミュニケーション学科所属の教員が、それぞれの専門に関する地域や研究分野に関する導入的な議論を行い、受講生が今後どのような学びを修めていきたいかについて、ヒントを提供するものである。「国際」コミュニケーションを学ぶことは、必ずしも外国の言語や文化だけを学ぶことを意味せず、日本の言語や文化の特徴や面白さを再発見することでもある。この講義を通じて、受講生は、異文化への理解力と共感力を身につけると同時に、日本や自分たちが住んでいる地域に対する関心を改めて深めるきっかけを得てほしい。  【SDGs：1, 4, 5, 10, 11, 16, 17】		
授業計画	① 国際コミュニケーション学科への導入と比較文化（1）：宗教文化（川上新二） ② 比較文化（2）：社会組織（川上新二） ③ 社会調査の基礎（小島ますみ） ④ 日本のことばの創造性と魅力（村中菜摘） ⑤ 文化の受容について考える（村中菜摘） ⑥ ことばの科学とコミュニケーション（1）（大澤聡子） ⑦ ことばの科学とコミュニケーション（2）（大澤聡子） ⑧ ことばと文化の日韓比較（孫ミギョン） ⑨ Z世代における日中間の相違について（王張璋） ⑩ 英語の言葉遊び：英語で詩を読んでもみよう（鈴木辰一） ⑪ Cross-cultural Communication Breakdowns: Causes and Solutions (Cotten, Randall) ⑫ 達人の英語学習法（小島ますみ） ⑬ 外国（アメリカ）の歴史を学ぶということ（藤田怜史） ⑭ 情報技術が社会に及ぼす影響（長谷川旭） ⑮ Diversity, Inclusion, Sustainabilityを考えるために（鈴木辰一） ⑯		
予復習等	予習：関心のある国際ニュースに触れておく。 復習：各授業に関するメモを整理し、まとめておく。関心を持った用語や出来事、ニュースに関する調査を行う。		
評価方法	授業の各回ごとに採点（10点満点）し、その合計（150点満点）を100点換算する。各回の採点基準は授業ごとに提示する。		
履修条件	なし		
教科書	なし		
参考書	なし、適宜紹介する。		

科目名	日本文化論 Japanese Cultural Studies	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）【他学科専門科目】	科目区分	講義
担当者	村中 菜摘	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本講義では、日本人の精神文化の特徴を学ぶことで、我々の最も身近にあって一生付いて回る「心」の側面から日本人の特徴を客観的に理解することを目的とする。これによって自己評価を高め、さらに求められるものは何かを考えて行動に移すことで、日々の悩みや生きづらさに向き合い、ひとりひとりがよりよい生き方を模索する方法を見つけられるようになることを到達目標とする。同時に、自分を知ることによって他者を理解し、よりよい人間関係の構築のヒントを見つけられることも到達目標とする。		
授業概要	本講義では日本人の精神文化から日本文化を考える。日本人のものの考え方の特徴を文化的側面から自覚することは、今後のよりよい生き方へとつながる作業である。具体的には、日本人の精神文化の代表的な特徴として「もののあはれ」「無常」「義理と人情」「粋」について、主に日本文学の立場から私たちの思考の型（癖）を認識する。「もののあはれ」では『源氏物語』、「無常」では主に『方丈記』および『徒然草』から、「義理と人情」では近松門左衛門の浄瑠璃作品、「粋」では九鬼周造『粋の構造』の考えを基本に近松作品を取り入れ、日本人の精神文化の魅力および改善点を考え、よりよい生き方を提案する。  【SDGs：4】		
授業計画	① ガイダンス、日本人の精神文化の特徴①「もののあはれ」（1） ② 日本人の精神文化の特徴①「もののあはれ」（2） ③ 日本人の精神文化の特徴①「もののあはれ」（3） ④ 日本人の精神文化の特徴①「もののあはれ」（4） ⑤ 日本人の精神文化の特徴②「無常」（1） ⑥ 日本人の精神文化の特徴②「無常」（2） ⑦ 日本人の精神文化の特徴②「無常」（3） ⑧ 日本人の精神文化の特徴②「無常」（4） ⑨ 日本人の精神文化の特徴③「義理と人情」（1） ⑩ 日本人の精神文化の特徴③「義理と人情」（2） ⑪ 日本人の精神文化の特徴③「義理と人情」（3） ⑫ 日本人の精神文化の特徴③「義理と人情」（4） ⑬ 日本人の精神文化の特徴④「粋」（1） ⑭ 日本人の精神文化の特徴④「粋」（2） ⑮ 日本人の精神文化の特徴④「粋」（3） ⑯ 定期試験		
予復習等	毎回、その日に学んだテキストの範囲を見直し、整理しておくこと		
評価方法	【自学科生の場合】 出席状況・受講態度40%、授業時に書いてもらうメモ20%、定期試験40% 【他学科生の場合】 出席状況20%、授業時に書いてもらうメモ40%、定期試験（レポート）40%		
履修条件	なし		
教科書	テキストとしてプリントを配布する		
参考書	必要に応じてプリントを配布する		

科目名	英語コミュニケーションⅡ English Communication II	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	杉浦 エレナ	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	The objectives of this course are for students to further develop practical communication skills for everyday English conversations. The course will build on foundation speaking and listening skills learned in the first semester. Students will also learn more about American and British customs and culture and be encouraged to ask more questions about their interests in other countries.		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：日本の文化になじみのない英会話教師をサポートしてきた職務経験を活用し、コミュニケーションをとる中で日本と外国の文化的なギャップへの実際の経験に基づく対処法を身につけます。】</p> <p>The students should by now be able to speak about familiar topics and the second semester course will expect students to give longer answers, be able to keep a conversation going and show enthusiastic listening skills. The course will focus on building on discussion skills and giving and reacting to opinions.</p> <p>【SDGs：4】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① Orientation. Review and icebreaker activities.</li> <li>② Class Facebook. Making small talk. Backchanneling.</li> <li>③ Personal motto. English proverbs. Expressing opinions.</li> <li>④ Tall tales. Tell short stories with sequencers. Refer back to events in a story.</li> <li>⑤ Keepsakes. Show and tell. Using past tense and present perfect tense.</li> <li>⑥ Keepsakes individual presentation assessment.</li> <li>⑦ Team spirit. Making suggestions. Agreeing and disagreeing.</li> <li>⑧ Mid term speaking tests</li> <li>⑨ Class cookbook. Describing foods and giving cooking instructions.</li> <li>⑩ Business venture. Brainstorm and describe a new business. Present ideas.</li> <li>⑪ Job interview. Describing job requirements. Interview/ee role plays.</li> <li>⑫ TV preview. Create and act out a dramatic scene.</li> <li>⑬ Public opinion. Create and discuss dilemmas and hypothetical situations.</li> <li>⑭ Mini debate. Plan and defend an argument. Hold mini debates.</li> <li>⑮ Review. Speaking assessment 2.</li> <li>⑯ End of term examination.</li> </ol>		
予復習等	<p>【予習】 Weekly vocabulary lists.</p> <p>【復習】 Speaking assessment 1 and 2.</p>		
評価方法	Week 6/8 speaking assessments, 20%. Week 15 speaking assessment 2, 20%. Participation, 10% End of term examination, 50%.		
履修条件			
教科書	Active Skills for Communication Book 2. HEINLE CENGAGE learning. Sandy, Kelly.		
参考書			

科目名	初級中国語Ⅱ（A1・A2・A3・A4・B1・B2クラス） Basic Chinese II	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	王 張璋	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本授業は中国語の初心者向けの授業である。中国語の発音や基礎文法に慣れることを目指す。中国語の発音は日本語と違って、独特な声調があるため、まずピンインや声調をしっかり練習し、中国語の発音に慣れるように頑張してほしい。中国語の発音、基礎的な文法知識を身につけながら、中国の文化や言葉表現の習慣に触れていく。一年間を通して「初級中国語I、II」で中国語検定資格の準4級あるいは4級を取得できるレベルを目指す。		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：トヨタ自動車関連の仕事に10年間勤め、海外外向経験あり。その後中国テーマパークの水族館部門にて、副館長として5年間運営に当たった】</p> <p>実務経験に基づいて、受講者が中国語の習得に難しいと感じる点は時間をかけて説明する。テキストに沿って、発音練習や文法の説明、練習問題などを行う。授業ではなるべく多くの学生に当てて、中国語の発音練習と会話練習を繰り返す。毎回、授業の理解とリスニングの練習をするために、最後の15分を使って小テストを行う（小テスト結果も授業評価の一部とする）。授業に合わせて最新の中国情報や音楽なども随時紹介する。</p> <p>【SDGs：10, 16】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 前期の復習</li> <li>② 第11課 母より背が高いです。</li> <li>③ 第12課 中国へ行ったことがあります。</li> <li>④ 第13課 手紙を書いています。</li> <li>⑤ 第14課 いつ来たのですか。</li> <li>⑥ 第15課 英語ができます。</li> <li>⑦ 第16課 15課を学び終わりました。</li> <li>⑧ 第17課 母が送ってくれました。</li> <li>⑨ 第18課 中国語が聞いて分かります。</li> <li>⑩ 第19課 走るのが速いです。</li> <li>⑪ 第20課 彼はフランス語を教えています。</li> <li>⑫ 第21課 本をたくさん読んでください。</li> <li>⑬ 第22課 中国へ帰ります。</li> <li>⑭ 復習</li> <li>⑮ 中国語の発表会</li> <li>⑯ 定期試験</li> </ol>		
予復習等	<p>【予習】 各課の文法を予習して、その説明を理解しておくこと。</p> <p>【復習】 前回習った内容を整理して、毎回の小テスト準備をしておくこと。</p>		
評価方法	出席状況20%、小テスト40%、定期試験40%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	前期使った教科書の後半を引き続き使用する。『楽しく学ぼう やさしい中国語（基礎編）』 郁文堂出版社。著者：張慧娟、王武雲、朱藝 2,500+税		
参考書	なし		



科目名	初級中国語Ⅱ (B3・B4・C1・C2・C3・C4クラス) Basic ChineseⅡ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科 (1年後期)	科目区分	演習
担当者	王 武云	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	前期で学習した中国語の基礎の上に、中国語の基本的な表現力を向上させる。後期は会話に重きを置いて進めていくが、基本的文法や文型を理解したうえで、初級レベルの中国語を話すことができるようになることを目指す。		
授業概要	前期と同じように、毎回、前回の授業で学習した本文についての小テストをする。少しずつ中国語の会話ができるようになってきて楽しくなるから、前期よりさらに頑張してほしい。 【SDGs : 4, 16】		
授業計画	① 前期の復習 ② 第11課 母より背が高いです ③ 第12課 中国へ行ったことがあります ④ 第13課 手紙を書いています ⑤ 第14課 いつ来たのですか ⑥ 第15課 英語ができます ⑦ 第16課 15課を学び終わりました ⑧ 第17課 母は送ってくれました ⑨ 第18課 中国語を聞いて分かります ⑩ 第19課 走るのが速いです ⑪ 第20課 彼はフランス語を教えています ⑫ 第21課 本を多く読むように ⑬ 第22課 中国へ帰ります ⑭ 復習 ⑮ 中国語の発表会 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 授業前習う予定の内容を目を通して、その説明を理解しておくこと。 【復習】 小テスト準備をしておくこと。		
評価方法	出席状況20%、小テスト40%、定期試験40%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	前期使った教科書の後半を引き続き使用する		
参考書	授業中随時紹介する		

科目名	初級韓国語Ⅱ Basic KoreanⅡ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科 (1年後期)	科目区分	演習
担当者	孫 ミギョン	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	この授業は、韓国語の文字であるハングルの読み書きと簡単な韓国語会話の習得を目標とする。「初級韓国語 (I)」の学習の上に、実践的な韓国語能力を身につけるために必要な「読む、聞く、書く、話す」の四つの技能に関する基礎をさらに習得する。ハングルを確実に読むことができ、書くことができるようになること、そして韓国語の簡単な文章がさらに発話できるようになることを目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：公的機関等での通訳、翻訳の経験あり】 韓国語の文字 (ハングル) の読み方、書き方だけではなく、言語に関わる韓国文化についても理解できるように授業を進める。前半では文字と発音の学習に力点をおき、後半では助詞の使い方や叙述・疑問・否定・尊敬などの用言活用を中心に学習する。授業には主体性と積極性を発揮して臨んでほしい。 【SDGs : 4, 9, 17】		
授業計画	① ガイダンス ② 第9課A・B 昨日、何をしましたか。/私は家で休みました。 ③ 第10課A・B どんな外国語を習いたいですか。/私は入口の横に立っています。 ④ 第11課A・B 何の用事で来られたんですか。/先生、今、お昼を召し上がっているんですか。 ⑤ 第12課A・B 本当に大きな書店ですね。/食べたことがないんですか。 ⑥ 第13課A・B 検索してみます。/何日間、行きますか。 ⑦ 第14課A・B 今日、授業が終わって何しますか。/人が多から、平日に行きましょう。 ⑧ 第15課A・B ほんとうに最高でした。/どこが痛いんですか。 ⑨ 第16課A・B トポッキを作ったんです。/本当に重くないんですか。 ⑩ 第17課A・B 友だちに聞きました。/髪、切ったんですか。 ⑪ 第18課A・B 風邪はすっかり治りましたか。/どんな歌がいいでしょうか。 ⑫ 第19課A・B 時間あったら、ちょっと録音してください。/ちょっと聞きたいんですけど。 ⑬ 第20課A・B 先週よりかなり寒くなりました。/この本、借りてもいいですか。 ⑭ 第21課A・B チケットがないと思いますよ。/出会ってから100日になるんです。 ⑮ 第22課A・B おいしく召し上がってください。/また風邪をひいてしまいました。 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 各課ごとに新出語彙を予め予習しておくこと。 【復習】 小テストがあるので必ず復習しておくこと。		
評価方法	発表10%、提出物及び授業態度20%、小テスト30%、定期試験40%(授業回数3分の1をこえて欠席した場合は評価の対象にならない)		
履修条件	「初級韓国語Ⅰ」の単位を履修していること。		
教科書	『新・韓国語へのとびら』、著：中島仁 /金珉秀 /吉本一、出版社：朝日出版社		
参考書	なし。		

科目名	日本語表現法Ⅱ	単位数	1
	Japanese Composition II	必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	村中 菜摘	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	コミュニケーションにおける話しことばの重要性を認識し、相手や場面に応じて適切なことば遣いを選択できるようになること、話し手の気持ちをくみ取った話の聞き方、相づちの打ち方などができるようになることを目的とする。特に適切な敬語の使い方を中心に、丁寧語・改まり語などを実践的に学ぶことで、実生活において、自分の置かれた場面、相手の立場や状況に応じた自然で好印象なことば遣いができるようになることを到達目標とする。		
授業概要	ことばの4機能である「読む」・「書く」・「話す」・「聞く」のうち、本講義では「話す」・「聞く」ことを中心に扱う。特に社会人として必須の敬語の習得に力を入れ、ロールプレイなど実践的な学習方法を取り入れ、自然に適切なことば遣いが身につくようにする。さらに、面接試験などの緊張した場面に身を置いた際にも、自分の言いたいことを的確に伝えることができるよう、話の構成技術も習得する。人前で話すことが苦手な方も自身がつき、より積極的になれるよう指導する。また「聞く」ことは「話す」以上に重要であるため、技術だけでなく、話し手の内面を思いやる表現方法についても学ぶ。  【SDGs：4】		
授業計画	① ガイダンス、コミュニケーション能力の確認 ② コミュニケーションの中のことばの重要性を再認識する ③ あいさつの目的とは、第二のあいさつ・気配りワードを用いた発話作り ④ ロールプレイ（1）初対面の相手との話題作り ⑤ 美しい発音・発声、語尾・話しぐせを意識する ⑥ 発話内容を簡潔にまとめ、明確に伝える ⑦ 敬語はなぜ必要か、敬語の種類と復習 ⑧ 敬語のロールプレイ（1）準備 ⑨ 敬語のロールプレイ（2）準備 ⑩ 敬語のロールプレイ（3）発表および講評 ⑪ 話の構成技術を学ぶ（1） ⑫ 話の構成技術を学ぶ（2） ⑬ 話の構成技術を学ぶ（3）成果発表 ⑭ 効果的な話の聞き方（1） ⑮ 効果的な話の聞き方（2） ⑯ 定期試験		
予復習等	毎回、その日に学んだテキスト、ワークブック、プリント等を見直しておくこと。		
評価方法	出席状況・受講態度40%、演習・発表への取り組み30%、定期試験30%		
履修条件	なし		
教科書	『コミュニケーション技法』／編著：プレゼンテーション学研究会／出版：ウィネット		
参考書	必要に応じてプリントを配布する		

科目名	English Conversation	単位数	1
	English Conversation	必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	コットン ランダル	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	This course aims to help students move beyond basic English expressions and move toward using more natural, native-like speaking skills. Some of these skills include speaking for longer turns, having conversations that use few questions, and increasing knowledge of natural expressions. Students will also learn natural reactions to use as they listen during conversations -- an important function of listening as an active participant. Speaking tests will be held twice during the semester so that students can show how well they have mastered these skills.		
授業概要	Students will spend much time in class learning vocabulary and speaking with classmates about everyday life topics. Vocabulary quizzes will be given at the end of each unit. By the end of the course, if students work hard, they will be able to speak English more fluently, accurately, and with more complexity than they could at the beginning of the year.  【SDGs：4, 17】		
授業計画	① Unit 5 (Part 1): Talking about breaks ② Unit 5 (Part 2): Free time activities ③ Unit 5 (Part 3): Current & future hobbies ④ Quiz / Unit 7 (Part 1): Recent meals ⑤ Unit 7 (Part 2): Food likes & dislikes ⑥ Unit 7 (Part 3): Exotic foods & eating out ⑦ Quiz / Practice for Speaking Test #1 ⑧ Speaking Test #1 ⑨ Quiz / Unit 4 (Part 1): Travel experiences ⑩ Unit 4 (Part 2): Future travel ideas ⑪ Unit 4 (Part 3): Planning a trip ⑫ Quiz / Unit 8 (Part 1): Five years later ⑬ Unit 8 (Part 2): Discussing life issues ⑭ Unit 8 (Part 3): Dream jobs ⑮ Quiz / Practice for Speaking Test #2 ⑯ 定期試験 (Speaking Test #2)		
予復習等	【予習】 Study the textbook before coming to class each week. 【復習】 Review the lessons to better remember the material covered in class.		
評価方法	Participation (20%); Vocabulary quizzes & homework (30%); Speaking tests (50%)		
履修条件	「英語コミュニケーションI」を受講することが望ましい。		
教科書	Conversations in Class (3E). Jerry Talandis Jr. and Bruno Vannieu. Alma Publishing, Kyoto, 2015.		
参考書	http://www.cic-multimedia.com/		

科目名	メディアイングリッシュ I Media English I	単位数	1
		必修区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科 (1年後期)	科目区分	演習
担当者	藤田 怜史	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	この授業はアメリカのニュース映像をとおして、総合的な英語能力に加えて国際ニュースへの関心と理解をふかめることを目標とする。具体的な到達目標は以下のとおり。 1：受講生はリスニングやスピーキングを含めた総合的な英語能力を向上させることができる。 2：受講生は世界のニュースに触れることで、国際的な視野を持ち、異文化に対する関心と理解を深めることができる。		
授業概要	本授業では、アメリカの放送局CBSのニュース映像を利用し、ネイティブの生きた英語に触れることで、リスニングやスピーキング能力を含めた総合的な英語能力の向上を目的とする。また副教材を用いてTOEICなどのポイントについても触れる予定である。関心の持ったニュース(授業で扱ったものに限らない)の内容や感想についてまとめたエッセイを書き、それを受講者同士で読み合わせて英語表現や内容について論評する機会も設けたい。  【SDGs：4. 10. 16. 17】		
授業計画	① Guidance (self-introduction, etc) ② Unit 1 ③ Unit 2 ④ Unit 3 ⑤ Unit 4 ⑥ mid-term report, peer review 1 ⑦ unit 5 ⑧ unit 6 ⑨ unit 7 ⑩ unit 8 ⑪ mid-term report, peer review 2 ⑫ unit 9 ⑬ unit 10 ⑭ unit 11 ⑮ unit 12 ⑯ 定期試験 (ないしレポート)		
予復習等	予習：指定されたユニットのテキストを読み、単語を辞書で調べておく 復習：聞き取りなどで聞き取れなかったフレーズを中心に繰り返し聞き、シャドーイングを行う		
評価方法	出席状況・授業態度 (30%)、課題 (20%)、定期試験 (50%)		
履修条件	なし		
教科書	『CBS News Break 6』/著：Nobuyuki Kumai, Stephen Timson/成美堂		
参考書	なし、適宜配布する		

科目名	パラグラフライティング Paragraph Writing	単位数	1
		必修区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科 (1年後期) [岐阜学関連科目]	科目区分	演習
担当者	大澤 聡子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本授業では、自分の考えや情報を分かりやすく、正確に伝えるための英文を書く基礎力を身につける。①英文ライティングの典型的なパターンを理解し、目的に応じた効果的な表現ができること、②英語の規則と構造を理解し、正確な英文が書けること、③まとまりのあるパラグラフがかけることの3つを到達目標とする。		
授業概要	本授業では4技能を使った練習をとおして、段階的にまとまった英文を論理構成にしたがって書けるようにする。目的別に書かれた英文を読み、それぞれの目的に応じた英文構成の典型的パターンをまず理解する。また例文から、説得力、論理性、一貫性、深みを文章に加味する表現を発見し、語彙と表現力を身につけ、与えられた目的に対して正確な英文で、効果的な論理展開をもつ英文を1つのパラグラフとして仕上げる。 【SDGs：4】 【岐阜学関連の授業回：⑦⑨】		
授業計画	① What is a Paragraph? パラグラフとは何か ② Narration 出来事を語る ③ Process 手順を説明する ④ Description of Feelings 感情を描写する ⑤ Description of People 人を描写する ⑥ Description of Places & Locations 場所を描写する(1) ⑦ Description of Places & Locations 場所を描写する(2) ⑧ Definition 人物や物事を定義する(1) ⑨ Definition 人物や物事を定義する(2) ⑩ Cause & Effect 原因と結果(1) ⑪ Cause & Effect 原因と結果(2) ⑫ Problems & Solutions 問題と解決策(1) ⑬ Problems & Solutions 問題と解決策(2) ⑭ Your Opinion-Agree 賛成意見を述べる ⑮ Your Opinion-Disagree 反対意見を述べる ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】テキストの授業範囲を読み込み、問題を解いておく。 【復習】重要項目をまとめる。課題を見直し、復習する。		
評価方法	出席状況・授業態度20%、課題40%、定期試験40%		
履修条件	なし		
教科書	『Smart Writing』/著：仲谷都 他/出版：成美堂		
参考書	授業で指示する。		

科目名	インテンシブリーディング Intensive Reading	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	丹羽 卓	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>本授業の目的は、比較的長い英語の文章を精確に読解できるようになることと、世界で英語が話されている国々の諸問題に関する知識を深めることにある。</p> <p>到達目標は以下の2点である。</p> <p>(1) 文法事項を確認しつつ、文・段落・文章全体の構成を確認しながら、少し難度の高い長文を精確に読解する力をつける。</p> <p>(2) 本文中に登場する抽象度の高い単語を、語形成の仕組みを踏まえて覚える。</p> <p>(3) 国際社会の抱える諸問題について自分の意見が持てる。</p>		
授業概要	<p>(1) 各Chapterで取り上げられる国の基礎知識を、ペアワークで確認する。</p> <p>(2) Vocabularyにある単語の意味を理解するだけでなく、語形成の知見を得ることで、有機的に単語を獲得することができるようにする。</p> <p>(3) Comprehension Questionsに答えることで本文の概要を把握する。その際、分の組み立てにも注目する。</p> <p>(4) 本文をスラッシュリーディングの手法を使って読むが、文法を的確に押さえながら精確に読むよう心掛ける。</p> <p>【SDGs : 1, 2, 10, 16】</p>		
授業計画	<p>① ガイダンス</p> <p>② CHAPTER 1 Colonialism</p> <p>③ CHAPTER 2 Postcolonialism</p> <p>④ CHAPTER 3 Neocolonialism</p> <p>⑤ CHAPTER 4 The UK</p> <p>⑥ CHAPTER 5 Ireland</p> <p>⑦ CHAPTER 6 Nigeria</p> <p>⑧ 中間試験</p> <p>⑨ CHAPTER 7 South Africa</p> <p>⑩ CHAPTER 8 New Zealand</p> <p>⑪ CHAPTER 9 Australia</p> <p>⑫ CHAPTER 12 The Philippines</p> <p>⑬ CHAPTER 13 Jamaica</p> <p>⑭ CHAPTER 15 Canada</p> <p>⑮ Review</p> <p>⑯ 期末試験</p>		
予復習等	<p>【予習】当該ChapterのWarm-up、Comprehension Questions、Vocabularyの問題に答えておく。また、本文にスラッシュを入れて読んでおく。</p> <p>【復習】授業中で学んだ単語や文法事項を整理する。</p>		
評価方法	授業参加度（予習課題の質問に答えるなど） 40%、中間試験30%、期末試験30%		
履修条件	なし		
教科書	『Global Perspectives in the English-speaking World: Past and Present』松柏社		
参考書	授業中に指示する。		

科目名	中国語（文法・読解） Chinese（Grammar and Reading）	単位数	1
		必選区分	必修（中国語重点の場合）
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	王 張璋	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>卒業までに中国語検定3級合格を目標とすれば、2年間を段階的に学習することが大切である。この授業は、その第1ステップである中国語検定4級レベルの基礎文法力・読解力を身につけることを目的とする。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：トヨタ自動車関連の仕事に10年間勤め、海外外向経験あり。その後中国テーマパークの水族館部門にて、副館長として5年間運営に当たった】</p> <p>実務経験に基づいて、受講者が中国語の習得に難しいと感じる点は時間をかけて説明する。テキストに沿って、発音練習や文法の説明、練習問題などを行う。授業ではなるべく多くの学生に当てて、中国語の発音練習と会話練習を繰り返す。毎回、授業の理解とリスニングの練習をするために、最後の15分を使って小テストを行う（小テスト結果も授業評価の一部とする）。授業に合わせて最新の中国情報や音楽なども随時紹介する。</p> <p>【SDGs : 10, 16】</p>		
授業計画	<p>① 発音の復習（第1課～第3課）</p> <p>② 第4課 你贵姓？</p> <p>③ 第4課の文法と練習</p> <p>④ 第5課 你去哪儿？</p> <p>⑤ 第5課の文法と練習</p> <p>⑥ 第6課 我想喝普洱茶。</p> <p>⑦ 第6課の文法と練習</p> <p>⑧ 第7課 你喜欢什么？</p> <p>⑨ 第7課の文法と練習</p> <p>⑩ 第8課 中国队太厉害了！</p> <p>⑪ 第8課の文法と練習</p> <p>⑫ 中国語の歌</p> <p>⑬ 会話作成の練習</p> <p>⑭ 中国語検定の練習</p> <p>⑮ 前期の復習</p> <p>⑯ 定期試験</p>		
予復習等	<p>【予習】各課の文法を予習して、その説明を理解しておくこと。</p> <p>【復習】前回習った内容を整理して、毎回の小テスト準備をしておくこと。</p>		
評価方法	出席状況20%、小テスト40%、定期試験40%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	『新・跟我学漢語』あるむ出版社。著者：朱新建・魯雪な・李智基（2,500円＋税）		
参考書	なし		

科目名	韓国語（文法・読解） Korean（Grammar and Reading）	単位数	1
		必選区分	必修（韓国語重点の場合）
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	「初級韓国語Ⅰ」の学習の上に、学生が韓国語の基本となる文法事項を習得し、韓国語の基本的な表現ができるようになること、基本的な読解ができるようになることを目的とする。具体的には、授業で学ぶ文法事項を習得して、授業やテストで示される文章が読み取れるようになることと目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：在外公館で翻訳、通訳の経験あり。】配布するプリントの学習内容にしたがって授業を進める。翻訳、通訳の経験から日本人が習得に困難を感じると思われる点については時間をとって説明する。韓国語は漢字語も多く、文法も日本語と似ている点があるため、日本人が韓国語を書いたり話したりすると、日本語式韓国語になりやすいので、韓国語での表現を身につけるようにする。受講者には発話してもらったり、質問に答えてもらったりするので、積極的に授業に参加してほしい。  【SDGs：10, 17】		
授業計画	① ～です。～ではありません。 ② あります。います。ありません。いません。 ③ ～します。～しますか。 ④ ～ですか。 ⑤ 何ですか。いかがですか。 ⑥ ～なさいませ。～してください。～しましょう。 ⑦ ～を～します。 ⑧ どこに行きますか。 ⑨ 時間、数。何が好きですか。 ⑩ ～しましょうか。～でしょう。 ⑪ ㄹ不規則変化 ⑫ 過去形、ㄹ不規則変化。 ⑬ ～して～（1）고 ⑭ ～して～（2）아/어/여서 ⑮ ～から～まで。～だけれども。～しないでください。 ⑯ 定期試験		
予復習等	プリントの中から次回の授業で学ぶ範囲の単語の意味を調べ、例文を読んでおくこと。毎回授業内容の復習に努めること。		
評価方法	テスト50%、出席状況及び授業態度50%		
履修条件	「初級韓国語Ⅰ」の単位を修得していること。		
教科書	なし。プリントを配付する。		
参考書	「初級韓国語Ⅰ」で使用した教科書		

科目名	グローバリゼーション論 Globalization Studies	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期） 【他学科専門科目】 [岐阜学関連科目]	科目区分	講義
担当者	藤田 怜史	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本講義の目的は、グローバリゼーションが何を意味し、それによって世界がどう変わった（変わっている）かを理解することを目的とする。また、グローバルな視点を涵養し、それによって異文化への共感力を高めることを目的とする。具体的な到達目標は以下のとおり。 1：受講生は、グローバリゼーションという現象の意味を理解できる。 2：受講生は、グローバリゼーションがもたらした好影響と悪影響を考察できる。 3：受講生は、グローバルな視点を身につけ、異文化への共感力を高めることができる。		
授業概要	グローバリゼーションとは、ヒト・モノ・カネが国境を越えてより自由に移動できるようになり、世界がひとつにつながりつつある現象を意味する。本講義では、世界がいかにつながっているかという問題を歴史的に振り返る。それに加えて、諸外国の状況について見ること、世界はひとつにつながりつつも、多様性を内包していることを確認し、またグローバリゼーションがもたらしたさまざまな影響を検討する。最後に、日本や岐阜というローカルな地域の中に、「世界」がどう存在しているか、またその逆についても見てみたい。なお、本講義は受講生にプレゼンを多く行ってもらい、積極的な参加、意見交換を期待する。 【SDGs：4, 5, 10, 11, 16, 17】 【岐阜学関連の授業回：⑬, ⑭】		
授業計画	① イントロダクション：グローバリゼーションってなに？ ② 世界はつながっている（1）：古代の世界の人・モノ・金の移動 ③ 世界はつながっている（2）：世界をめぐる食べ物 ④ 世界はつながっている（3）：幕末から明治維新のグローバル・ヒストリー ⑤ プレゼンⅠ：人とモノの ⑥ 世界各地を見てみよう（1）：アメリカ合衆国 ⑦ 世界各地を見てみよう（2）：タイ文化圏における価値観と地域差 ⑧ 世界各地を見てみよう（3）：七大陸の文化と環境 ⑨ プレゼンⅡ：旅行計画を立ててみよう ⑩ グローバリゼーションの諸問題（1）：人とモノの移動の活性化 ⑪ グローバリゼーションの諸問題（2）：文化の均質化と格差の拡大・固定化 ⑫ プレゼンⅢ：グローバリゼーションの利点と欠点 ⑬ 日本における世界・世界における日本（1） ⑭ 日本における世界・世界における日本（2） ⑮ プレゼンⅣ：岐阜（故郷）を世界に発信しよう ⑯ 定期試験		
予復習等	予習：世界全体のニュースに関心を持ち、可能な限り触れておく。 復習：講義で扱った話題について自分で調査を行い、プレゼンの準備をする。		
評価方法	【自科学生の場合】出席状況・授業態度（30%）、プレゼン（30%）、定期試験または期末レポート（40%） 【他科学生の場合】出席状況・授業態度（30%）、中間レポート（30%）、期末レポート（40%）		
履修条件	なし		
教科書	なし。資料を配布する。		
参考書	なし。適宜紹介する。		

科目名	サステナブル社会論 Studies in Sustainable Societies	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	講義
担当者	荒木 隆人	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	「サステナブル(sustainable)社会」とは、地球の環境、平和や公正が次の世代にも伝われ、継承されていくような社会を意味する。すなわち、それは、人類がこの地球上で暮らし続けていくために形成していかなければならない社会のことである。2015年には、国連総会において、このサステナブルな社会を実現するための具体的な目標として、持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）が提唱された。本授業の目的は、このSDGsの具体的な目標を学ぶことで、私たちが目指すべきサステナブル社会についての理解を深めることである。		
授業概要	<p>本講義では、持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)が掲げる17の目標と169のターゲットについて詳細に解説する。各回の講義において、SDGsが掲げる具体的な目標とターゲットの内容を理解することを通じて、現在の世界が目指すべきサステナブル社会の全体像を明らかにする。</p> <p>【SDGs：1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15,16,17】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ガイダンス</li> <li>② 目標1「貧困をなくそう」目標2「飢餓をゼロに」</li> <li>③ 目標3「すべての人に健康と福祉を」</li> <li>④ 目標4「質の高い教育をみんなに」</li> <li>⑤ 目標5「ジェンダー平等を実現しよう」</li> <li>⑥ 目標6「安全な水とトイレを世界中に」</li> <li>⑦ 目標7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」</li> <li>⑧ 目標8「働きがいも経済成長も」目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」</li> <li>⑨ 目標10「人や国の不平等をなくそう」</li> <li>⑩ 目標11「住み続けられるまちづくりを」目標12「つくる責任 つかう責任」</li> <li>⑪ 目標13「気候変動に具体的な対策を」</li> <li>⑫ 目標14「海の豊かさをまもろう」</li> <li>⑬ 目標15「陸の豊かさを守ろう」</li> <li>⑭ 目標16「平和と公正をすべての人に」</li> <li>⑮ 目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」</li> <li>⑯ まとめ</li> </ol>		
予復習等	<p>【予習】講義内で紹介する教科書等で各界の講義で扱う内容について予習をすること</p> <p>【復習】講義で配布された資料を理解した上で、一層理解を深めるために参考書等で調べる</p>		
評価方法	小課題20%、期末レポート80%		
履修条件	なし		
教科書	『SDGs(持続可能な開発目標)』著・蟹江憲史／出版：中央公論新社 ISBN 978-4121026040		
参考書	講義中において適宜指示する。		

科目名	社会調査論 Theory and Methods of Social Research	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）〔岐阜学関連科目〕	科目区分	講義
担当者	王 武云	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本講義では、社会調査のしくみや考え方、実施方法と事例について学び、良い調査とそうではない調査を的確に見分ける力を養うとともに、調査の方法やデータの解釈の仕方、結果の発表の仕方について基礎力を養成することを目的とする。本講義をととして、あるフィールドで課題を見つけその課題を探求するために必要な基礎力を養う。到達目標は、社会調査に関する基礎的知識を身につけるとともに、社会調査データを正しく評価・利用するための能力を身につける。		
授業概要	<p>本講義では、社会調査のしくみや考え方、実施方法と事例について学ぶ。また、実際のデータを観察し、日本社会の変化や今後の動向について理解を深める。受講者は、社会調査の実際についての文献を読み、概要についてグループ発表を行う。その文献の元になった論文を概観し、社会調査の実際について理解する。また、アンケート調査やインタビュー調査、フィールドワークの実施方法について学び、良い調査とそうではない調査を的確に見分ける力を養うとともに、調査を企画・実施する基礎力をつける。グループ発表機会を設ける。</p> <p>【SDGs：1,3,4,5,10,17】 【岐阜学関連の授業回：⑬】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ガイダンス、社会調査とは何か</li> <li>② さまざまな社会調査1</li> <li>③ さまざまな社会調査2</li> <li>④ アンケート調査</li> <li>⑤ インタビュー調査</li> <li>⑥ 参与観察とフィールドワーク</li> <li>⑦ データ収集と活用</li> <li>⑧ データ分析の実際</li> <li>⑨ 調査地点による分類（地域調査、全国調査、国際比較調査等）</li> <li>⑩ 調査時点による分類（クロスセクション調査、継続調査、パネルサーベイ）</li> <li>⑪ 調査報告書の作成法</li> <li>⑫ データから読み解く日本社会</li> <li>⑬ データから読み解く岐阜</li> <li>⑭ グループ発表</li> <li>⑮ グループ発表</li> <li>⑯ 定期試験</li> </ol>		
予復習等	【予習】指定されたテキストの関連部分を読んでおく。		
評価方法	出席状況・授業態度30%、グループ発表20%、期末試験50%		
履修条件	特になし		
教科書	『社会調査のしくみと考え方』原純輔著 放送大学叢書		
参考書	『最強の社会調査入門—これから質的調査をはじめるときのために』前田拓也ほか編 ナカニシヤ出版		

科目名	近現代の世界	単位数	2
	The Contemporary World	必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	講義
担当者	藤田 怜史	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>本講義では、今われわれが生きているとされる近代・現代という時代が、そもそもどのような時代であるか、いわゆる前近代と呼ばれる時代と何が違うのかについて、理解を深めることを目的とする。具体的な到達目標は以下のとおり。</p> <p>1：受講生は、世界史（主に西洋史）の概略を把握することができる。</p> <p>2：受講生は、近代以降と前近代以前の違いについて理解できる。</p> <p>3：受講生は、世界史の学びを通じて、異文化理解や多文化共生の考え方を身につけることができる。</p>		
授業概要	<p>本講義は、主に「近代」以降の西洋の歴史を概観し、近代および現代という時代がどのような特徴を持つ時代であるかについて理解を深めることを目的とする。主に西洋史を扱うことになるが、それは、近代と前近代を分かつ思想の多く（個人主義や自由主義）が西洋において生まれたためである。個人の自由や平等をうたうこうした思想が今もなおわれわれの世界の思想的基盤をなしているのであり、差別の廃止や平等の推進が世界全体での政策目標として掲げられているのである。本講義をおとして、自分たちがいる世界がどのような道のりで築かれてきたかについて理解を深めてほしい。</p> <p>【SDGs：1, 4, 5, 10, 16, 17】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① イントロダクション：「近代」とはなにか？ 世界史（西洋史）の時代区分</li> <li>② 宗教改革の時代</li> <li>③ 「ヨーロッパ」の拡大：大航海時代へ</li> <li>④ 自由と専制のはざまの近世</li> <li>⑤ フランス革命と産業革命</li> <li>⑥ プルジョワ社会の成立と国民統合</li> <li>⑦ 中・東ヨーロッパの再編と民族問題</li> <li>⑧ 帝国と植民地</li> <li>⑨ 植民地から独立・建国へ（南北アメリカ）</li> <li>⑩ 現代アメリカの形成（南北アメリカ）</li> <li>⑪ 2つの世界大戦</li> <li>⑫ 現代国際体制の成立と展開</li> <li>⑬ ヨーロッパ統合への道</li> <li>⑭ 現代科学・技術の光と闇</li> <li>⑮ 全体のまとめ</li> <li>⑯ 定期試験</li> </ol>		
予復習等	<p>予習：事前配布資料がある場合、それを読んでおく。</p> <p>復習：講義中にとったメモなどを整理し、簡単にまとめておく。わからなかった、関心を持った用語・出来事について自分で調査をする。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度（30%）、定期試験or期末レポート（60%）		
履修条件	なし		
教科書	なし。資料を配布する。		
参考書	『大学で学ぶ西洋史 [近現代]』／著：小山哲ほか編著／ミネルヴァ書房 『論点・西洋史学』／著：金澤周作監修／ミネルヴァ書房		

科目名	英語圏文化・社会	単位数	2
	Anglophone Culture and Society	必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	講義
担当者	藤田 怜史	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>本講義の目的は、アメリカ合衆国が持つ様々な多様性を理解し、異文化に対する理解と関心を深めることである。具体的な到達目標は以下のとおり。</p> <p>1：受講生は、アメリカの地理的広大さが多様性の土台となっていることを理解できる。</p> <p>2：受講生は、現在のアメリカの人種的・民族的・性的多様性を把握しつつ、その多様性が認められるまでの道のりがいかなるものであったかを説明することができる。</p> <p>3：受講生は、様々なテーマに関する調査・プレゼンを通じ、アメリカの多様性について関心を深め、発信することができる。</p>		
授業概要	<p>アメリカ合衆国は様々な意味で多様性の国である。アメリカは地理的広大さゆえに多様な自然・風土を持ち、それが産業や人びとの気質にさまざまな違いを生んでいる。アメリカは白人を中心とする国であるが、アフリカから連れてこられた黒人たちはアメリカ史を語る上では欠かせない存在であり、また近年アジア系やヒスパニック系の人びとの数も増えている。またひとくちに「白人」といっても、そこにはさまざまなエスニックがいる。女性や性的マイノリティもまた歴史的な抑圧に抵抗し、権利獲得が進んでいる。受講生には、こうしたさまざまな多様性が、現代アメリカの社会や文化にどのような好影響を与えているか、あるいはどのような問題をはらんでいるかを考察してもらいたい。</p> <p>【SDGs：1, 4, 5, 10, 16, 17】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① イントロダクション：アメリカとはどんな国か</li> <li>② プレゼンⅠ：アメリカの名物・名産品・観光地・流行に関する調査 1</li> <li>③ プレゼンⅠ：アメリカの名物・名産品・観光地・流行に関する調査 2</li> <li>④ アメリカの地理（1）</li> <li>⑤ アメリカの地理（2）</li> <li>⑥ プレゼンⅡ：アメリカの各地域の歴史、違いなどに関する調査</li> <li>⑦ アメリカ黒人の歴史（1）</li> <li>⑧ アメリカ黒人の歴史（1）</li> <li>⑨ プレゼンⅢ：奴隷制度、黒人差別、黒人文化に関する調査</li> <li>⑩ アメリカにおける移民（1）</li> <li>⑪ アメリカにおける移民（2）</li> <li>⑫ プレゼンⅣ：白人移民、日系、アジア系、ヒスパニック系移民に関する調査</li> <li>⑬ アメリカにおける女性運動と性的マイノリティ</li> <li>⑭ プレゼンⅤ：男女平等憲法修正条項、中絶論争、同性婚などに関する調査</li> <li>⑮ まとめ：アメリカの多様性と、それに対する抵抗</li> <li>⑯ 定期試験</li> </ol>		
予復習等	<p>予習：配布物がある場合、事前にそれを読んでおくこと。また複数回行われるさまざまな調査について準備をする。</p> <p>復習：各講義で扱ったテーマに関するニュースや文献などに触れ、自身の調査に活かす。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度（30%）、プレゼン（30%）、定期試験または期末レポート（40%）		
履修条件	なし		
教科書	なし。資料を配布する。		
参考書	『よくわかるアメリカの歴史』／著：梅崎透ほか編著／ミネルヴァ書房 『はじめて学ぶアメリカの歴史と文化』／著：遠藤泰生ほか編著／ミネルヴァ書房		

科目名	アジア文化論 Asian Cultural Studies	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	講義
担当者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	日本やアジアの文化を文化人類学の立場から学ぶことを通じて、価値の多様性を理解することを目指す。具体的には、学生が日本やアジアについて文化人類学による基礎知識を修得するとともに、多様な文化を理解するために文化人類学が提出してきた文化に対する見方、考え方を理解し、アジア各地の事例について文化人類学による見方が説明できるようになることを目標とする。		
授業概要	最初に、文化人類学という学問の特徴や文化の概念、フィールドワークの特徴等を学ぶ。次に、日本やアジア、とりわけ日本の隣国である中国や韓国での生活様式（文化）のなかから、婚姻、家族、親族、出自などをとりあげて、それぞれについて文化人類学による見方や概念を学ぶ。レポートや定期試験では、授業で学んだ文化、婚姻、家族、親族、出自などに関する文化人類学による基礎知識や見方を身につけているかを問うので、復習を欠かさないこと。  【SDGs：10, 16, 17】		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 文化人類学について</li> <li>② 文化について</li> <li>③ 婚姻（1）婚姻の概念</li> <li>④ 婚姻（2）文化人類学が考える婚姻（南インド・ナヤールの婚姻、岐阜県白川村の婚姻）</li> <li>⑤ 婚姻（3）中国漢族、韓国、日本に冥婚</li> <li>⑥ 父と母</li> <li>⑦ 家族（1）家族の概念（南インド・ナヤールの家族、岐阜県白川村の家族）</li> <li>⑧ 家族（2）私たちが考える家族と文化人類学が考える家族</li> <li>⑨ 家族（3）日本の家族、韓国の家族、中国漢族の家族</li> <li>⑩ 親族（1）親族の概念</li> <li>⑪ 親族（2）日本の親族、韓国の親族、中国漢族の親族</li> <li>⑫ 出自（1）出自の概念</li> <li>⑬ 出自（2）中国漢族の場合、韓国の場合：父系出自</li> <li>⑭ 出自（3）その他の地域場合：母系出自、双系出自</li> <li>⑮ 出自（4）日本の場合</li> <li>⑯ 定期試験</li> </ul>		
予復習等	配付されたプリントを整理し、次の授業時間に使用するプリントの内容を確認しておくこと。授業後は、学んだ内容のノート整理を怠らないこと。		
評価方法	レポート50%、定期試験50%		
履修条件	なし。		
教科書	なし。プリントを配付する。		
参考書	『文化人類学入門』／著・祖父江孝男／出版・中央公論社		

科目名	日本語教授基礎理論 Introduction to Japanese Language Teaching	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	講義
担当者	村中 菜摘	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	日常的に使用する日本語を客観的にとらえ、外国人に日本語を教えるために知っておくべき「言語としての日本語」の特徴を理解できることを目的とする。日本語を教える際に必要な日本語の基礎知識を身につけた上で、実際に日本語を教える場でそれを応用し、自分なりに活かせるようになることを到達目標とする。		
授業概要	本講義では、主に日本語教育に全く携わったことのない方を対象とし、外国人に日本語を教える際に必要なさまざまな日本語についての基礎知識、他の言語と比較してどのような特徴をもっているのかを概略的に学ぶ。加えて、日本語教育についての考え方の背景となっている基礎知識も学ぶ。そのことにより、実際に日本語を教える際、外国人学習者から投げかけられるさまざまな質問に備え、自分の教え方に役立てることができれば幸いである。  【SDGs：4】		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ガイダンス、外国人に日本語を教えることについて</li> <li>② 言語としての日本語（1）</li> <li>③ 言語としての日本語（2）</li> <li>④ 日本語の音声（1）</li> <li>⑤ 日本語の音声（2）</li> <li>⑥ 日本語の音声（3）</li> <li>⑦ 日本語の文法（1）</li> <li>⑧ 日本語の文法（2）</li> <li>⑨ 日本語の文法（3）</li> <li>⑩ 日本語の文法（4）</li> <li>⑪ 日本語の文字・表記、日本語の語彙</li> <li>⑫ 社会言語学（1）</li> <li>⑬ 社会言語学（2）</li> <li>⑭ 日本語教育と心理学（1）</li> <li>⑮ 日本語教育と心理学（2）</li> <li>⑯ 定期試験</li> </ul>		
予復習等	毎回、その日に学んだテキスト、プリント等を見直しておくこと。		
評価方法	出席状況・受講態度40%、定期試験60%		
履修条件	なし		
教科書	『新・はじめての日本語教育』／監修：高見澤孟／出版：アスク出版		
参考書	必要に応じてプリントを配布する		



科目名	海外言語・文化演習（英語圏） Overseas Language and Culture Program (English-speaking Countries)	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1・2年全期）	科目区分	演習
担当者	各担当教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	これまで学んだ英語の能力を基に、英語圏の大学で大学教員による授業を受講しながら、聞く、話す、読む、書くの4技能をさらに伸ばすことを目標とする。あわせて、学生各自が身につけた英語を使って英語圏の文化、社会を観察、体験し、各自の視野を広め、異なる文化を持つ人々との共存を目指す思考を養うことを目標とする。		
授業概要	夏季休暇中に10日間程度、英語圏での研修を予定している。研修先の大学において、ネイティブスピーカーの現地教員による英国語および英米文化の授業を受けるとともに、現地学生との交流活動も行う。世界遺産や博物館などの見学、ホームステイも予定している。現地への出発前にオリエンテーションを実施し、帰国後は課題の提出を求める。現地での授業や活動のほかに、出発前のオリエンテーションへの出席、帰国後の課題提出を満たした者に単位取得を認める。  【SDGs：10, 17】		
授業計画	① 出発前にオリエンテーションを実施する（数回） ② 現地研修校における語学・文化演習 ③ 帰国後、課題提出。 ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯		
予復習等	各オリエンテーションの後、その内容を確認し、出発のための準備に怠らないこと。研修先では真面目な態度で臨むこと。		
評価方法	研修での授業や活動への参加態度50%、帰国後の課題50%。		
履修条件	初回のオリエンテーションで指示する。		
教科書	なし（現地研修先での指定教科書がある場合もある）		
参考書	オリエンテーションで指示する。		

科目名	海外言語・文化演習（中国語圏） Overseas Language and Culture Program (Chinese-speaking Countries)	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1・2年全期）	科目区分	演習
担当者	各担当教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	授業で学んだ中国語の能力を基に、中国語圏の大学で大学教員による授業を受講しながら、聞く、話す、読む、書くの4技能をさらに伸ばすことを目標とする。あわせて、学生各自が身につけた中国語を使って中国語圏の文化、社会を観察、体験し、各自の視野を広め、異なる文化を持つ人々との共存を目指す思考を養うことを目標とする。		
授業概要	夏季休暇中に8～10日間程度、中国語圏での研修を予定している。研修先の大学において、ネイティブスピーカーの現地教員による中国語および中国文化の授業を受けるとともに、現地学生との交流活動も行う。世界遺産や博物館などの見学、ホームステイも予定している。現地への出発前にオリエンテーションを実施し、帰国後は課題の提出を求める。現地での授業や活動のほかに、出発前のオリエンテーションへの出席、帰国後の課題提出を満たした者に単位取得を認める。  【SDGs：10, 17】		
授業計画	① 出発前にオリエンテーションを実施する（数回） ② 現地研修校における語学・文化演習 ③ 帰国後、課題提出。 ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯		
予復習等	各オリエンテーションの後、その内容を確認し、出発のための準備に怠らないこと。研修先では真面目な態度で臨むこと。		
評価方法	研修での授業や活動への参加態度50%、帰国後の課題50%。		
履修条件	初回のオリエンテーションで指示する。		
教科書	なし（現地研修先での指定教科書がある場合もある）		
参考書	オリエンテーションで指示する。		

科目名	海外言語・文化演習（韓国）	単位数	1
	Overseas Language and Culture Program (Korea)	必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1・2年全期）	科目区分	演習
担当者	各担当教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	授業で学んだ韓国語の能力を基に、韓国の大学で大学教員による授業を受講しながら、聞く、話す、読む、書くの4技能をさらに伸ばすことを目標とする。あわせて、学生各自が身につけた韓国語を使って韓国の文化、社会を観察、体験し、各自の視野を広め、異なる文化を持つ人々との共存を目指す思考を養うことを目標とする。		
授業概要	夏季休暇中に8～10日間程度、韓国での研修を予定している。研修先の大学において、ネイティブスピーカーの現地教員による韓国語および韓国文化の授業を受けるとともに、現地学生との交流活動も行う。世界遺産や博物館などの見学、ホームステイも予定している。現地への出発前にオリエンテーションを実施し、帰国後は課題の提出を求める。現地での授業や活動のほかに、出発前のオリエンテーションへの出席、帰国後の課題提出を満たした者に単位取得を認める。  【SDGs：10,17】		
授業計画	① 出発前にオリエンテーションを実施する（数回） ② 現地研修校における語学・文化演習 ③ 帰国後、課題提出。 ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯		
予復習等	各オリエンテーションの後、その内容を確認し、出発のための準備に怠らないこと。研修先では真面目な態度で臨むこと。		
評価方法	研修での授業や活動への参加態度50%、帰国後の課題50%。		
履修条件	初回のオリエンテーションで指示する。		
教科書	なし（現地研修先での指定教科書がある場合もある）		
参考書	オリエンテーションで指示する。		

科目名	産業・地域振興人材研修	単位数	1
	Human Resource Training for Industrial and Regional Development	必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1・2年全期）	科目区分	演習
担当者	各担当教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	自治体や企業などでの研修を通じて、地域の発展のための課題への取り組みを体験するとともに、職業意識を高める。社会で必要とされている能力について考え、研修後の学習意欲に結びつける。		
授業概要	自治体や企業などで一定期間研修を受ける。長期休暇を利用した研修が望ましい。  【SDGs：8】		
授業計画	実施の過程はおおよそ次のように予定している。 ① 事前ガイダンス ② 研修を希望する学生は、希望研修先を進路支援委員の教員に伝える。 ③ 学生は研修登録を行う。 ④ 研修実施の決定 ⑤ 研修。研修期間中、学生は研修日誌を作成する。 ⑥ 研修終了後、研修日誌を進路支援委員の教員に提出する。		
予復習等	研修先での研修内容について研究する。研修中は、研修日誌を作成し、翌日の研修に備える。		
評価方法	研修日誌60%、事前の取り組みや研修先での評価など40%		
履修条件	誠実に研修に臨むこと		
教科書	なし		
参考書	なし		